



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 51

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】

懐かしの1枚  
初代 浦島太郎  
昭和40(1965)年頃  
詫間町

荘内半島の箱で暮らす大西友吉氏が務めていた。昭和20年代、荘内村は生里などの荘内半島の地名から浦島太郎伝説の観光事業に取り組んでいた。20年代後半には髭をのぼし、まげを結び、浦島太郎の装束を身に著け、観光事業の一役を担うようになった。

「この写真は箱崎の浜で撮られたものです。初代浦島太郎の大西友吉さんを囲んで、箱出身の子どもたちや大西さんの孫たちが、撮影用の衣装を着て写っています」と話すのは、箱在住の谷口勝久さん(80)。

「詫間町内には、浦島伝説が古くから伝わり、伝説にまつわる地名が数多く残っています。昭和22年頃、郷土史家で箱出身の三倉重太郎さんが、町内で語り継がれてきた浦島伝説を一つにまとめました。その後、当時の荘内村長などが集まり、観光事業について話し合う中で、浦島伝説の象徴となるものが必要だという話になったんです。そこで、農業や漁業が盛んだったころから、観光事業に対して明るかった大西友吉さんが初代浦島太郎に選ばれ、観光に携わるようになりまして」と初代浦島太郎誕生の経緯を話します。

「大西さんは一時期中国で働いていた経験からヒントを得て、地域の活性化のために外部から人を呼ぶことの重要性を唱え、箱地区で初めて実践した人だったと思います。浦島太郎として活動する中で、容姿を伝説に出てくる浦島太郎に似せたのも大西さんのアイデアでした。改名を考えるくらい熱心に取り

「想い出の1ページ」

組んでいましたよ。世話好きな性格で、観光客が訪れるといつも楽しそうに話をしていたので、人気も高かったですね。また、人を集めるために踊り子や三味線演奏者を呼ぶなど、これらも全てボランティアでされてきました。このように、地域や香川県の宣伝に駆け回っていた姿が印象に残っています」と当時を振り返ります。

初代以来、浦島太郎は様々なイベントに参加し、市の観光を盛り上げてきました。現在は山田要さんが元気に3代目浦島太郎として活躍しています。



後記  
海岸に流れ着くごみの多くは、川を伝って流されてきたものです。道端の空き缶や吸い殻をそのままにしておく、いつかは海へと流れ出ます。そうなる前に、ごみを一人ひとりが責任をもって正しく捨てる。実は、この行為がきれいな川や海を守ることにもつながっています。春はもうすぐそこまで来ます。今年は、足元目を向け、きれいな三豊の春を楽しみたいですね。